

## 2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	流体と構造物の連成問題小委員会		主 査 名：登坂宣好 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 シェル・空間構造運営委員会		委員長名：中島正愛 主 査 名：小河利行
設 置 期 間	2008 年 4 月～2012 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・シェルや空間構造物などの大型構造物や軽量構造物に対する様々な連成問題が存在しているが、風、水波、溶液等の流体との構造連成系を構成する場合に対象を絞って、理論、実験および数値計算による構造物の安全性や性能評価手法を検討するとともに、設計に反映させる合理的でかつ実用的な解析手法や評価法を探ることを目的とする。得られた成果は成書が少ない現状に対し、構造連成解析の必要性を啓蒙することが出来るものとする。</p> <p>・流体と構造物の連成問題の調査・研究の継続を行う。</p> <p>・連成問題について調査・研究してきたことを資料としてまとめる。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：登坂宣好(東京電機大学) 幹事：遠藤龍司(職業能力開発総合大学校)、近藤典夫(日本大学) 委員：濱本卓司(東京都市大学)、大嶋昌巳(千代田アドバンスト・ソリューションズ)、高野真一郎(大林組)、西村敏雄(日本大学名誉教授)、福住忠裕(元神戸大学)、松井徹哉(名城大学)、皆川洋一(鹿児島大学)、山田貴博(横浜国立大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2011 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 今年度まで、流体と構造物の相互作用についての調査・研究を行い、その成果物の刊行を計画してきたが、今年度末にその資料を作成し、公表する準備が整っている。 2. 当小委員会は今年度で活動終了になるので、次期小委員会についての活動内容について意見を交換した。次期小委員会は衝撃・連成に対する構造物の挙動解明を主眼として行うことに決定した。 3. 小委員会活動を通して、構造物の連成系問題の研究成果について広く議論・検討を行なうことができ、概ね目的は達成した。
委員会活動の問題点・課題	1. 実在構造物についての調査・研究が不足であった。